



を出版させていただきました。  
多くの方のご支援をいただきまして  
まことにありがとうございます。

このような感想もいただきました。  
本当に嬉しい感想をいただいたので一部引用させていただきます。

>企業情報特に創業からの歴史とか意外と知らないで  
>投資している自分に（本により）気づかせられました。

>大前研一が BRICS の次は TVT（タイ・ベトナム・トルコ）と  
>言っていますが、タイの政治が安定し景気がよくなる事を  
>祈ります。また、阿部様の益々の御活躍に期待しております。

（Yさんありがとうございます。）

>12月には海外投資祭りにも参加させていただきましたが、  
>大変貴重なお話を聞くことができ、大阪から参加した甲斐がありました。  
>スケジュールの関係で、少し時間が短かった気がしますが・・・。

（こちらでもYさんありがとうございます。）

>内容を少しだけ読みましたけど、正直こんなに詳しく書いてあるとは思っていませんでした。  
>これからタイ株をされる方には絶対参考になる本だと思います。

（Mさんまことにありがとうございます。）

新宿の紀伊国屋書店や丸善でも大きく置いていただいております。  
ありがとうございます。  
何故か地元さいたまでは置いてなかったのですが・・・。（残念。）

さてそれでは第29号に入ります。どうぞ宜しくお願い致します。

（こちらのメールマガジンは転送可となっております。  
御友人や御知り合いでタイに関心ある方にどんどんお伝え下さい。）

□□ No1 タイ株初心者編です ■■

まずはタイの総選挙結果で「国民の力党」が勝利しました。

12月23日のタイ下院総選挙が無事行なわれまして  
12月末時点の獲得議席数はこのようになりました。

総議席数で480議席

国民の力党 (パラン・プラチャーチョン)	233議席
民主党 (プラチャーティパット)	165議席
タイ国民党 (チャートタイ)	37議席
国民のため党 (プアペンディン)	24議席
タイ合同国家開発党 (ルアム・チャイタイ・チャートパッタナー)	9議席
中道主義党 (マチマーティパタイ)	7議席
タイ王民党 (プラチャーラート)	5議席

ただし、選挙管理委員会による選挙違反容疑で当選が無効となるケースも予想され、その分は1月中に再選挙が行われます。

わずかに過半数に届かないパランプラチャーチョン党ですが、すでに3位チャートタイ党、4位プアペンディン党との連立が合意されているようで、ほぼ旧タクシン勢力による政権運営が確実な状況です。

じゃあ今後どうなるの？  
と言うご質問が多くなりそうですが、  
基本路線では「タクシン元首相の経済政策」を引き継ぐとされています。

問題はそれを好ましく思わない軍部と反タクシン勢力の動きだけでしょう。

管理人はもう少し民主党が議席数を確保すると  
考えていましたが、2007年度民主党寄りの暫定政権も良い政策を打ち出せなかったのも  
影響していると考えます。

タイの過去の歴史を振り返ると  
このような連立政権はけっこうもめて短命になるケースも多い  
ことから、閣僚の顔ぶれがどうなるかなど、1月は注視しています。

□□ No2 タイ株上級者編です ■■  
タイ株の上場企業詳細のコーナーを作りました。

●● バンクオブアユタヤ (BAY) 029 です。 ○○

こちらタイの民間商業銀行となります。

銀行業界で第6位の企業。

BBL (バンコク銀行)

KTB (クルンタイ銀行)

SCB (サイアム商業銀行)

KBANK (カシコーン銀行)

TMB (TMB銀行)

とその次に続きます。

アユタヤ銀行は資産規模で第6位のタイ国商業銀行です。  
バンコク市内でも黄色のATMや支店を数多く見かけます。  
2006年には  
アメリカ金融グループGEキャピタルと資本提携。  
カード事業やリテール部門の強化を進めています。

アユタヤ銀行は華系財閥のラタナラック家の資本であり、  
こちらのラタナラック財閥ではTV7 (Broad Casting Television) や  
サイアムシティセメントSCCCも経営しています。

□□ No3 タイ国内ニュース編です ■■

2007年初はバンコクで同時爆弾テロがありました。

<Newsclip より引用>

2006年12月31日深夜にかけて  
バンコクの8カ所で爆弾が爆発しタイ人3人が死亡。  
外国人旅行者9人とタイ人34人が負傷した。  
犯人は捕まっておらず再発が懸念されている。政治、経済への影響は必至で、  
第2クーデターのうわさが流れるなど  
軍事政権、暫定政府の足元は大きく揺らいでいる。

外国人のけが人はニューイヤーカーカウントダウンのため  
セントラルワールド前に集まっていた英国人やハンガリー人の旅行者で、  
日本人の被害はなかった。

これにより2007年明けも株価は冴えないところからの  
スタートで、管理人も「タイ株ダメかな」  
と考えておりました。

(結局は今考えると600ポイント台からのスタートは買ってたわけですが)

(現在タイ株は850ポイントですので。)

07年末08年初は厳戒態勢でカウントダウンイベントが行なわれたようです。  
(とりあえず何もなく一安心です)

昨年はタイは不安定な時期だったと思いますが2008年こそ  
タイ経済にもタイの証券業界でも良い年になって欲しいです。

□□      No4 追伸です      ■■

まずはタイ株書籍「日本人が知らなかったタイ株」キャンペーン。  
多くの方にご支援いただきましてありがとうございます。

次号で更なるこちらに関するニュースを  
ご提供できると思います！

書籍を読まれた方も是非ご感想いただくと幸いです。

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4798115460/asianstocktha-22/ref=nosim>

最後までお読みいただきましてありがとうございました！

阿部

---

●注意事項です

- 1：こちらのメールマガジンは客観的情報の提供を目的としており、  
投資等の勧誘または推奨を目的としたものではないことをご了承ください。
- 2：タイの情報については細心の注意を払っておりますが、その内容に相違が  
発生する場合もあり、保証するものではありません。
- 3：タイの株式売買決定は自己責任でお願い致します。

□□□□□□□■□□□□□□□□□□

阿部 俊之

TOSHIYUKI ABE

Managing Director

ASEAN JAPAN CONSULTING Co.,Ltd.

TEL 001-66-81441-2303 (Direct Call)

E-mail [abe@thaikabu.net](mailto:abe@thaikabu.net)

Blog <http://toatoajugem.jp/>

Homepage <http://thaikabu.net/>

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

